

相馬野馬追まつり

Soma Nomaoi Festival

1K06B162

指導教員 主査 寒川恒夫先生

仲野 裕介

副査 杉山千鶴先生

【序章】

私は福島県の生まれであり、福島県で育った。そして、今回卒業論文を作成するにあたり、地元福島県で有名な夏祭りである「相馬野馬追まつり」をとりあげることとした。なぜならば、このまつりは、国の重要無形民俗文化財に指定されており、また、東北地方の夏祭りのさきがけとされる、県内でもっとも大きなまつりだからである。またそれと同時に東北六大祭りのひとつとして有名である。だが、正直なところ詳しいことはなにも知らず、なぜ、相馬という小さなまちで、このように大きなまつりが継続されているのかを知りたいと思ったのがきっかけである。そのため、相馬野馬追まつりを例に挙げ、さまざまな角度からみることにより、「まつり」というのは、なんのために存在するのかを自分なりに考察することとした。

【第一章 「まつり」】

まつりにはどんなものがあるのか、まつりとは言っても、信仰対象や、まつる人々の人数・範囲によってさまざまな種類の祭りがある。そこで、ここでは実際に福島県内において行われているまつりを例に挙げながら、種類別にまつりを考えることとする。

【第二章 歴史】

この章では、まず福島県の各地の歴史を考察し、地区による特性を考えてみることにした。福島県は大きく地理的に三つに分けて会津・中通り・浜通りという地区に分けられている。こ

の地区により、地理的複雑性に伴い、社会的複雑性を生むことになり、県民性は異なるとともに、現在の福島県ができる前は、藩が異なり、文化も各藩によって独自のものがある。特に、相馬野馬追まつりが行われている旧相馬藩の地区の文化・歴史を紐解き、考えることとした。

【第三章 相馬野馬追】

この章では、相馬野馬追の概要を解説するとともに、三日間行われる祭事の中身一つ一つに関して、祭りの意味や成り立ちに関して考察する。また、それと同時に、中世から続いた相馬藩の武士社会を支えた、武士道精神などの精神的背景についても考察する。

【第四章 観光資源としての相馬野馬追】

この章では、現在の相馬野馬追の実態・あり方に関して解説する。そして、観光客を誘致する意味も含めた、国内や海外で積極的に行っているPR活動にも触れることとする。また、祭りを実際に運営する各自治体の執行委員会の活動や、執行委員会が抱える課題とこれからの展望について考察する。そのように、現代に求められる観光資源としてのまつりの運営に関してだけでなく、古くからの伝統に基づく、相馬のひとたちが抱く感情・価値観がどういうものなのかということについても述べることとする。今なお厳守されている、野馬追を観戦する際のご法度行為というものを例に挙げることにより、現地の住民達の価値観とはどういうものなのかについて考えていく。

【結章】

論文全体についてのまとめを述べる。また、今後の展望について考える。

なお、論文の中での市町村の表記であるが、合併後に名前が変わっている市町村も存在するが説明の便宜上、旧市町村名で表記している箇所がある。